

研究レポート2

スポーツライフに関する調査報告書「スポーツライフ・データ2014」
東京オリンピック・パラリンピック
「競技場での観戦希望率」は、
オリンピック39.0%!! パラリンピック18.4%!!

全国の20歳以上を対象にした『スポーツライフに関する調査』を取りまとめました。
開催が決定した2020年の東京オリンピック・パラリンピックを、国民がどう捉えているかを測るべく、
観戦希望などについて調査しました。

1 東京オリンピック・パラリンピックの
競技場での観戦希望率は



2 東京オリンピック・パラリンピックの競技会場で観戦したい種目(希望率)(複数回答)
※開会式・閉会式を含む

1位 サッカー.....47.8%
2位 開会式.....47.0%
3位 体操.....41.1%

全体(n=778)

1位 車いすバスケットボール.....42.3%
2位 車いすテニス.....40.7%
3位 陸上競技.....37.0%

全体(n=359)

担当者のコメント

今回の調査では、東京オリンピック・パラリンピックの競技場での観戦希望率は、オリンピックが39.0%、パラリンピックが18.4%であった。いずれも50歳代の観戦希望率が最も高い。種目別にみると、男性はサッカー(オリンピック)、車椅子バスケットボール*(パラリンピック)、女性は体操(オリンピック)、車いすテニス(パラリンピック)の観戦希望率が高いという特徴がある。また、今回の調査結果から開会式に対する注目度も高いことが確認できた。

招致委員会がIOCに提出した立候補ファイルには、オリンピック・パラリンピックの全競技会場を観客で満員にするため。そのためには、2020年までの5年間でオリンピック・パラリンピックの大会機運を全国規模でどのように盛り上げていくのか、さらにチケットの販売方法や価格設定などに関する確かなマーケティング方策の検討が課題となる。スポーツには「する」「みる」「ささえる」の3つの活動があるが、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機として、「みる」スポーツの普及・振興を具体的に検討していくことが必要である。

(笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員 山田大輔)

※正式表記は「車椅子バスケットボール」(本文中では正式表記を用いた)

TOPICS

住民総参加型のスポーツイベント
チャレンジデー2015

2015年5月27日(水)
全国130市町村で一斉開催

お問い合わせ:
笹川スポーツ財団 研究調査グループ チャレンジデー担当
メール: cday@ssf.or.jp

笹川スポーツ研究助成2015

今年度、優れた「人文・社会科学領域」の研究41件(一般20件、奨励21件)を支援しています。

○研究のテーマ等はホームページをご覧ください。

スポーツ専門ライブラリ 学遊館

スポーツ関連の書籍・雑誌・調査報告書など約5,000冊を所蔵
ホームページから蔵書の検索もできます

○開館日時/月曜日~金曜日
(土・日・祝は休館)9:00~17:00

■調査結果、お問い合わせはこちら

ホームページ www.ssf.or.jp

電話 03-5545-3303

SSF
SPORT
スポーツ ポリシーリサーチ
POLICY RESEARCH

VOL.10



CONTENTS

研究レポート1

スポーツライフに関する調査報告書
スポーツライフ・データ 2014

- 1.わが国成人の運動・スポーツ
実施率の上昇傾向にブレーキか
- 2.スポーツボランティアの実施率の
横ばい傾向は変わらず
- 3.男性の7割が「プロ野球」、
女性の7割が「フィギュアスケート」をテレビで観戦

研究レポート2

東京オリンピック・パラリンピック「競技場での観戦希望率」は、
オリンピック39.0%!! パラリンピック18.4%!!

笹川スポーツ財団は、
国民が生涯を通じて、
それぞれが望むかたちでスポーツを
楽しみ、幸福を感じられる社会
(スポーツ・フォー・エブリワン)の実現を
ミッションに掲げるスポーツ専門の
シンクタンクです。



研究レポート1

スポーツライフに関する調査報告書 スポーツライフ・データ 2014

■ 調査目的

本調査はわが国の運動・スポーツ活動の実態を総合的に把握し、スポーツ・フォー・エブリワンの推進に役立つ基礎資料とすることを目的としている。特色は、「実施頻度」「実施時間」「運動強度」の3つの観点から運動・スポーツ実施率を算出している点である。また、今回はメインピックとして、東京オリンピック・パラリンピックを取り上げた。

調査内容

1. 運動・スポーツ実施状況
(種目、実施頻度、実施時間、運動強度)
2. 運動・スポーツ施設
3. スポーツクラブ・同好会・チームへの加入状況
4. スポーツ観戦
5. スポーツボランティア
6. スポーツ指導
7. 日常生活習慣・健康
8. 2020年東京オリンピック・パラリンピック
9. 個人的属性
10. 自由記述

調査対象

1. 母集団：全国の市区町村に居住する満20歳以上の男女
2. 標本数：2,000人
3. 地点数：市部191、郡部19、計210地点
4. 抽出方法：割当法

調査時期

2014年5月23日～6月15日

調査方法

訪問留置法(調査員が回答者を訪問して調査票を配布し、一定期間内に回答を記入してもらい、調査員が再度訪問して調査票を回収する方法)による質問紙調査

回収結果

2,000人(男性:989人、女性:1,011人)

SSFスポーツライフ調査委員会

- 委員長：海老原 修 横浜国立大学 教授
 委員：小林 優子 東京学芸大学大学院 博士課程
 委員：澤井 和彦 桜美林大学 准教授
 委員：高峰 修 明治大学 准教授
 委員：仲澤 真 筑波大学大学院 准教授
 委員：野井 真吾 日本体育大学 教授
 委員：松尾 哲矢 立教大学 教授
 委員：渡邊 一利 笹川スポーツ財団 専務理事



2014年12月31日発行
192ページ
3,000円+消費税
ISBN 978-4-915944-57-4
Amazonブックストアより
お求めいただけます。

担当者のコメント

今回の調査から、わが国の「する」「みる」「ささえる」スポーツの現状をみると、「する」の運動・スポーツ実施率は「週1回以上」が57.2%、「週2回以上」が47.5%と2012年調査と比較して減少した。この点についてさらなる向上施策が求められるが、「散歩」や「ウォーキング」といったすでに実施率の高い種目を維持しつつ、オリンピック・パラリンピックを契機に競技系種目の振興を図っていく必要があるだろう。

「みる」のテレビスポーツ観戦種目は、男性が「プロ野球」(72.6%)、女性が「フィギュアスケート」(70.3%)の観戦率が高い。ほとんどの種目で男性よりも観戦率が低い女性のスポーツ観戦の中では、このフィギュアスケートの値は特異な存在であり、今後は女性が「フィギュアスケート」に惹かれる理由の分析が必要となる。

「ささえる」のスポーツボランティア実施率は7.7%で、調査開始の1994年からほとんど変化がみられない。東京オリンピック・パラリンピックには多くのボランティアが参加すると推測されるが、イベントの一過性ではない文化としてのスポーツボランティアを定着させる方策を、今から推進し、レガシーとして受け継いでいくことが重要であろう。

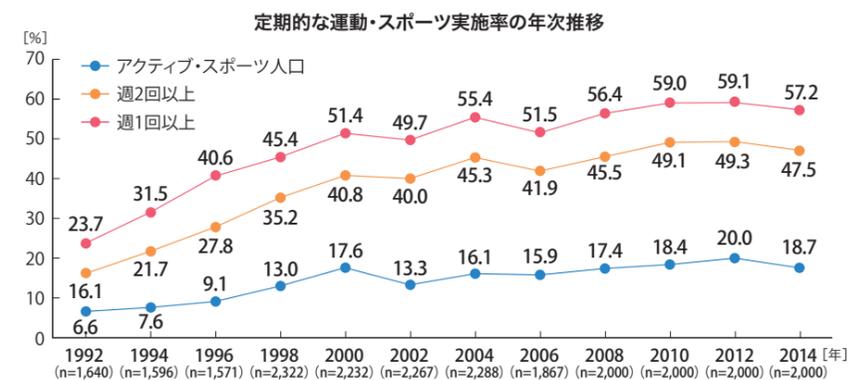


笹川スポーツ財団
スポーツ政策研究所 研究員
藤原直幸

調査結果

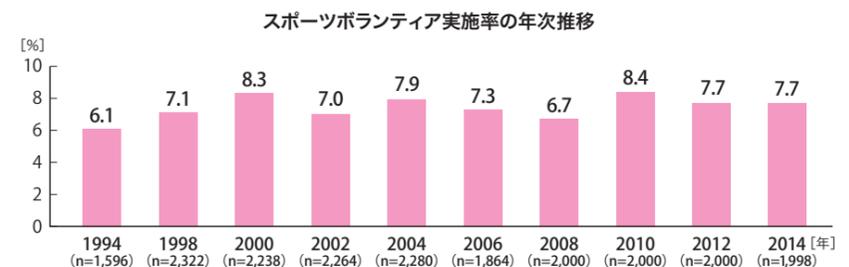
1 わが国成人の運動・スポーツ実施率の上昇傾向にブレーキか

わが国成人の過去1年間の運動・スポーツ実施率は、調査を開始した1992年から増加を続け、2012年には週1回以上(59.1%)、週2回以上(49.3%)ともに過去最高の値を記録した。しかし、今回調査ではそれぞれ57.2%、47.5%と減少しており、2010年を境に上昇傾向にブレーキがかかっている。定期的な運動・スポーツ実施率が今後どのような推移をたどるのか、次回調査が注目される。



2 スポーツボランティアの実施率の横ばい傾向は変わらず

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者は全体の7.7%で、2012年調査と同じ値であった。1994年から経年で見ると、2010年調査時に過去最高の8.4%を記録したが、過去20年間1割以下にとどまり、ほぼ横ばいの状態にある。



3 男性の7割が「プロ野球」、女性の7割が「フィギュアスケート」をテレビで観戦

過去1年間にテレビで観戦したスポーツ種目は、全体で「プロ野球(NPB)」が59.4%で1位、「フィギュアスケート」が50.8%から57.4%へと6.6ポイント増加し2位に上昇。「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」は51.5%で3位となった。また、「バレーボール(日本代表試合)」が52.1%から30.3%へと

21.8ポイントの大幅な減少となった。性別にみると、男性は「プロ野球(NPB)」が72.6%で最も高い。また、ほとんどの種目で女性より男性の方が高い観戦率を示した。一方、「フィギュアスケート」(男性44.2%、女性70.3%)は女性の値が高かった。

テレビによるスポーツ観戦種目別観戦率(全体・性別:複数回答)

順位	全体(n=2,000)		男性(n=989)		女性(n=1,011)	
	観戦種目	観戦率(%)	観戦種目	観戦率(%)	観戦種目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	59.4	プロ野球(NPB)	72.6	フィギュアスケート	70.3
2	フィギュアスケート	57.4	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	58.9	プロ野球(NPB)	46.4
3	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	51.5	高校野球	56.4	マラソン・駅伝	45.0
4	高校野球	47.9	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	46.8	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	44.1
5	マラソン・駅伝	45.7	マラソン・駅伝	46.3	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	41.4
6	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	44.1	大相撲	45.1	高校野球	39.5
7	大相撲	38.7	フィギュアスケート	44.2	バレーボール(日本代表試合)	32.6
8	バレーボール(日本代表試合)	30.3	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	38.8	大相撲	32.4
9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	27.3	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	37.6	プロテニス	18.8
10	Jリーグ(J1、J2、J3)/プロゴルフ	26.3	プロゴルフ	35.3	Jリーグ(J1、J2、J3)	18.6